

## 畑作物の大型機械化栽培について 第2報 甘 藷

加藤 拓・田崎正人・三好 坦  
(大分県農業試験場大野分場)

KATO, H., TASAKI, M. and MIYOSHI, H.  
Experiments on the Mechanized Crop Production  
(II) Sweet potato

火山灰土の傾斜畑において、1962～1963年に行なわれた甘藷の大型機械化栽培の試験結果を報告し参考に供する。

**試験条件** 畦巾 66cm の畦立て栽培、供試ほ場はほぼ中央線が6度、さらに中央線から両側に3～10度の傾斜をなし、巾が62m長さは一边が101m他の一边が117mのほ場で、面積は67アールである。トラクターは37馬力ホイールトラクター、採苗、植付け、収穫は主として町内居住の婦人によつて行なわれた。

**試験結果及び考察** 耕起、砕土、ブロードキャスターによる施肥、薬剤散布については第1報参照のこと。作畦はほ場の長辺方向に斜面の上方から下方への片道作業で2畦ずつ作畦した。斜面の上方へはトラクターがスリップして作畦できない。いもの堀取りは1畦ずつ

行ない、この場合は6度の斜面でも斜面の上方への堀取りが可能であつた。ヘクタール当りの作業時間は第1表に示されるように767.5時間であつた。そのうちまったく手作業であつた採苗および植付け作業が33%、いもの堀取りとつるの撤出以外は手作業であつた収穫作業が58%をしめており、労働生産性の飛躍的な向上をはかるためには、植付け、つる処理の機械化による省力化と、出荷方法と関連させていも集め、調整の省力化をはからねばならない。なお甘藷の収量は10アール当り2,230kgであつた。本試験の結果斜地においても、甘藷の大型機械化栽培が比較的容易に行なえる見通しがえられた。

第1表 栽培体系およびヘクタール当りの作業時間 (1963)

栽培体系		作業人員	作業時間		作業時間割合		摘 要
作業名	作業手段		トラクタ	人	トラクタ	人	
石灰散	ブロードキャスター	2	1.8	3.6	3.7	0.5	全面散布, 10a 当り 100kg 斜面を斜め下方へ片道耕 縦横各1回がけ 全面散布, 10a 当り 84kg
耕起	ディスクプラウ	1	7.3	7.3	14.9	1.0	
砕土	ディスクハロー	1	2.2	2.2	4.5	0.3	
化成肥料散布	ブロードキャスター	2	1.2	2.4	2.4	0.3	
作畦	リッジャー	1	3.5	3.5	7.1	0.5	
採苗	鎌, ハサミ	3～9	—	80.5	0	10.5	
植付け	手植え	2～7	—	169.8	0	22.1	
除草	スプレヤー	2	4.3	8.6	8.8	1.1	
除草	手取り	3～5	—	6.3	0	0.8	
害虫防除	スプレヤー	2	3.5	7.0	7.1	0.9	
つるの運び出し	鎌	4～8	—	84.3	0	11.0	
いもの堀取り	トラレー	4～8	9.7	85.7	19.8	11.2	
集藷調整	ポテトスピナー	1	4.5	4.5	9.2	0.6	ほ場から200mの所で計量包装 埋設したいものかき出し
運搬計量包装	手作業	4～10	—	247.9	0	32.3	
いものかき出し	トラレー, ハカリ	4～5	9.0	31.0	18.3	4.0	
集藷袋入れ	ツースハロー	1	1.3	1.3	2.6	0.2	
運搬計量包装	手作業	6	—	19.2	0	2.5	ほ場から200mの所で計量包装
計	トラレー, ハカリ	3	0.8	2.4	1.6	0.3	
		—	49.1	767.5	100	100	